

齒科漂白 NEWS LETTER No.8



DENTAL WHITENING

日本齒科漂白研究会

Japan Academy of Cosmetic Dentistry

2004. 2. 10

帝国ホテルにペリオ・インプラント・レスキュー・クリニックが誕生

～自分で患者を同伴して、一緒にオペに参加できる開放型クリニック～



レントゲン室



手術室

究極の「審美」とは自分をもって生まれた歯を、白く美しく守り育てることである。

「漂白」はMI (Minimum Intervention) の観点からしても、有益かつ生体に優しいテクニックである。しかし、欠損歯ともなれば、インプラ

ントやデンチャーに委ねる他ない。近年、急速に普及しているインプラントの審美性の鍵は、ティッシュマネジメントにある。すなわち、インプラントの審美性と予後に欠かせないのが「歯槽外科」である。多くのトラブルシューティングはこのティッシュへの配慮不足が原因である。インプラントの埋入手術は簡単だが歯槽外科は専門性が極めて高いために等閑になりがちである。

本会常任理事（中原悦夫）の運営する医療法人社団協立歯科はこうした臨床上のニーズに応えるため、帝国ホテルプラザ4階に京都のPIO国際歯科センター（代表 飯田正人）と提携して、PIO東京インプラントセンターを併設した「Clinique DUBOIS（クリニックデュボワ）」を昨年12月にオープンした。

トモグラフィーをはじめ、無菌を保つエアーカーテン、歯科界初のライティングシステムを完備したオペレーションルーム、3月には客室との専用エレベーターが開通し、ホテルに宿泊してのオペレーションを可能にするなど、ホテルサイドの期待も大きい。

飯田氏は口腔外科出身で、36才で奥羽大学の歯周病科の教授に就任した歯槽外科の草分け的存在である。臨床重視の考えからその座も捨てて京都に拠点を創設し、歯槽外科のレベリングコースを主催している。また、ドイツで多くのインプラントの開発に関わっている。彼のもとには、多くの難症例、トラブルケースなどが持ち込まれるが、患者の立場と臨床医の立場を深く理解した上での対応に定評がある。

中原氏は、「ペリオ、インプラントに伴うトラブルシューティングのレスキュークリニックであると同時にこれからインプラントを始めたいというドクターや難症例に挑戦しようという前向きなドクターに、患者同伴でいっしょに手術に立ち会っていただき、自らの研鑽の場として開放したい」と話す。

まさしく、欧米にある、インストラクター付きオープンオペレーションセンターの登場である。個人の技術に患者を従わせる時代から、患者の状態に我々の個々の専門技術をタイムリーに合わせていく時代への架け橋としてこのセンターへの期待は大きい。

問い合わせ：クリニックデュボワ TEL 03-3509-1651